



ぐんぐん すくすく！ 相生っ子！

住所 相生市緑ヶ丘 4 丁目 5-5
電話 0791-23-5070 FAX 0791-22-7211
E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp

『大人が変われば 子どもが変わる 子どもが変われば 未来が変わる』

「子どもは社会を映す鏡」です。さあ、私たち大人ができることから変身しましょう！

(1) ルールやマナー・人への思いやり。いいことを率先して実行していますか？

- ☐ 交通ルールを守っていますか
- ☐ 電車やバスで高齢者や体の不自由な人に席を譲っていますか
- ☐ 携帯電話の使用など、公共の場所でのルールやマナーを守っていますか
- ☐ 省エネルギー・リサイクルなど環境に配慮した生活をしていますか
- ☐ ゴミや吸い殻は、決められた場所に捨てていますか



(2) 子どもの心を理解しようとし、子どもにとって何が本当にいいのか考えて行動していますか？

- ☐ 子どもといっしょに悩んだり、考えたりしていますか
- ☐ 自分のまちがいは素直に認め、謝っていますか
- ☐ ほかに子どもと比較していませんか
- ☐ 良いところはほめ、悪いところはしかっていますか
- ☐ 子どもへの愛情を言葉や行動で伝えていますか



(3) 子どもの立場で物事を考え、子どもの言うことをしっかり受けとめていますか？

- ☐ 子どもの話を途中でさえぎらず、最後まで聞いていますか
- ☐ 子どもを外見だけで判断せず、心の中まで理解していますか
- ☐ 子どもの立場にたって考えることができますか
- ☐ 子どもの個性を認め、一人の人間としてかわるようになっていますか
- ☐ 自分の考えを一方的に押し付けていませんか



- ◆「今の子どもは・・・」と思った時、自分の姿を省みてください。「はっ！」としたなら、そのときが変身のチャンスです。
- ◆変身のコツは、恥ずかしがらずに勇気を持つことです。
- ◆無理な変身は続きません。できることから！ 少しずつやってみましょう。

あいさつができる子は伸びる。

あいさつは「心の開き」を表す。

いつでも、どこでも、誰でも学び続けていこう。

こう思っている子は先にあいさつをする。

こう思っている子のあいさつは気持ちがいい。

こう思っている子のあいさつは相手を元気にする。

あいさつは「心の開き」を表す。

人とのつながりに不安を抱いている。自分自身の成長に自信がもてない。

そんな子はあいさつができない。

常に受け身であり、弱々しい声が返ってくる。

あいさつができる子は伸びる。

人は生きている限り常に不安と共にある。

閉じようとする心を、あいさつでこじ開ける。

常に開いて、開いて、開き続ける。

その姿勢が子どもたちを成長させていく。

あいさつは「心を開く」練習。

非行少年たちに寄り添って ～乳幼児期に戻る少年たち～

スクールカウンセラー、元福岡県警少年育成指導官 堀井 智帆

私が思春期の非行少年に出会った時に思ったのが、「もっと早くこの子たちと出会っていいよ」ということでした。だから私は今から2年前に福岡県警を辞めて、スクールカウンセラーになりました。現在は学校現場、特に小学校で活動しています。活動を始めると、盗みや暴力、喧嘩、いじめ、オーストリア（薬の大量服薬）、リストカット、性被害・加害などがたくさん起こっていて、思春期に起きる問題行動はもう小学校から始まっているのだと分かりました。私は、県警の少年育成指導官の時と全く同じ活動を小学校でもやっていく事になりました。そのうち私は、「問題行動の始まりは、小学校よりさらに前の幼稚園や保育園にあるのでは？」と考えるようになりました。

例えば幼稚園や保育園で、お友だちの行動が気に入らず、友だちのほっぺたをひっかく園児がいます。

すると、その日の夕方、先生は迎えに来た親御さんに、「お子さんがお友だちをひっかきました。お家でも注意してあげてください」と言いますが、対応はほとんどそれで終わります。

でも、そこで終わらせちゃいけないと私は思っています。友だちのほっぺたをひっかく行為は、もしかしたらその子の「自分の心は充電が足りていない」というサインかもしれないのです。

その場に私たちのようなカウンセラーがいれば、「お母さん、今日はぜひお家で、お子さんをぎゅーっと抱きしめて、スキンシップの時間を多く取ってあげてくださいね」とアドバイスすることができます。

子どもは、大人との様々な関わりを通じて、抱きしめられる温もり、自分の気持ちを分かち合ってもらえる喜び、自分に注目を浴びる嬉しさ、たくさん遊んでもらう楽しさを感じながら育ちます。

私はこれを「プラスの関わり」と呼んでいます。

一方、叩かれる痛み、離婚や死別など家族の形が変わる悲しみ、自分の気持ちを分かち合ってもらえないつらさや怒り、そんな経験もあります。これを「マイナスの関わり」と呼んでいます。

そんなプラスとマイナスの関りがごちゃ混ぜになって降り注がれる中で子どもは育っていくのですが、やがて総決算される時が来ます。それが思春期です。

総決算後にプラスが多くなったら子は自立できますが、マイナスが多くなったら子は、そのままでは自立できません。

すると、どうなるか？彼らは乳幼児期に戻ろうとします。乳幼児期に戻ってプラスの関わりをもらおうとするのです。

でも戻るのには心だけで、取る行動は思春期の青年です。

だから周りの大人は、また彼らを怒ったり叱ったり見放したりします。

その結果、マイナスをプラスに転じられない子は更生できないのです。

わたしたち大人が、彼らとどのように関わり合うのか？とても重要だということです。

プラスの関わりをするための大事なコミュニケーションのポイントが3つあります。「スキンシップ」「目を合わせる」「名前を呼ぶ」です。

子どもが起きている間の15分間のスキンシップが、心の安定のためにとても重要であることが心理学の研究結果で分かっています。

乳幼児期だと、着替えやオムツ替え、ミルクやお風呂などでこの「15分」を賄えます。でも小学生くらいになると、ご飯も着替えも自分でできますから、スキンシップの時間が取りにくくなってしまいます。

その場合は、子どもを寝かしつける前に15分くらいマッサージなどをしてあげてください。スキンシップが足りないのと「愛着障害」が起こります。愛着障害の状態になると、粗暴や多動になったり、共感性がなくなったり、友だちを傷つけたりするようになります。

私が学校でそういう子を見つけた時は、親御さんに「スキンシップを毎日15分間、それを3カ月続けてください」とアドバイスします。それで落ち着くケースも多いです。

「目を合わせる」も大事です。目を合わせると「オキシトシン」というホルモンが出ます。このホルモンには、ストレス軽減や、不安や心配を緩和させる働きがあるとされています。



(次号に続く)

【ほりい・ちほ】
児童養護施設勤務を経て、福岡県警察本部北九州サポートセンター勤務。延べ2000人の非行少年と向き合う。現在はフリーの立場で子ども相談・講演活動を行う。著書に『非行少年たちの神様』（青灯社）がある。